

吉野の森を 持続可能な林業へ 未来へつなぐ

奈良県の吉野地方は400年以上の歴史を誇る林業地帯だ。吉野の林業を考えることは、木の文化の重要性や持続可能な社会の実現について考えなおす、きっかけになる――。



日本政策金融公庫近畿地区林業友の会(事務局：日本公庫近畿地区総括課)は、1989年に設立され、今年で32年になる歴史ある会です。この会は、奈良県・吉野で林業を営む清光林業株式会社(大阪府大阪市)の岡橋清元会長(当時)が発起人となり、会の趣旨に賛同した近畿管内の吉野、北山、丹波、紀伊など主な林業地の山持(山林所有者)である林業家約10社が発足メンバーとなり設立されました。

時代に合うトピックス・テーマで開催してきた講演会は、近年では山持以外にも林産加工、素材生

産、木質バイオマス発電など多様な業態の参加があります。林業関係者が一丸となり林業発展のみちを探ってきました(表)。

今年度は、「吉野林業」をテーマとした講演会をオンラインで実施しました。登壇者に参加者から多

講演

吉野林業の歴史とこれから

愛媛大学名誉教授
一般社団法人 大和森林管理協会 代表理事

泉 英二

江戸時代から続く伝統ある吉野林業では、持続可能な林業をめざそうと、伝統を打ち破る独自の取

くの問題があり、活発なやり取りが交わされました。また、吉野林業、地域振興について勉強になったといった感想が寄せられました。

2題の講演を誌上に再録します
(1月28日、於：奈良市、参加者：林業関係者29人)。

り組みがおこなわれている。
小規模林業を実現する山守制度が吉野林業の特徴である。森林管

理をおこなう山守は、山持から報酬として山守料を得た。山守の高い育林技術によって吉野の材木は高値で取引された。間伐材は山守が買い取り有利に販売した。主伐材の価値が高まり、間伐材からも収入を得られるような選木を山守がすること、吉野林業は持続可能な森林管理を実現、森林の公益的役割を果たしてきた。

しかし、1980年代終わりから、材価は低迷、山守の後継者がいないなど、山元の衰退が顕著になった。戦後は1本1本ヘリコプターによって山から集材していたが、いまでは1社のみだ。

良質な木材の価格下落は、大工や工務店など地域雇用や地域経済の衰退につながる。また日本の木の文化を失いかねない。

山

持は山に入らないのが常であるなか、代々続く山持の現当主・岡橋清元さんと弟の清隆さんは、みずからユニボを購入し路網を整備、材の流通システムの改善などに取り組み、山守が戻る基盤づくりに尽力してきた。

追随者も現れ、数年前には「吉野山主有志の会」が設立され、「大和森林管理協会」が事務局を担当している。これまで共同作業道の開

表 林業友の会が開催してきた講演

年度	テーマ
1989	国産材時代の到来と世界の林業
1990	日米構造協議の意味するところ
1991	林業労働力の予測
1992	林業労働力の確保
1993	海外木材需給状況と国産材の関係
1994	長伐期施業
1995	阪神大震災における木造住宅などの被害状況と今後の対応
1996	木材産業のこれからの方向性
1997	日本の林業の今後の見通し
1998	低コストな合自然的林業
1999	住まいと木材
2000	時代の気分と世代の気分
2001	森林のための木材流通ネットワーク
2002	山林経営と税金
2003	新しい森林の価値を求めて 森林資源の証券化の試案
2004	国産材の逆襲 国内消費を呼び戻すための戦略・戦術
2005	木材の化学的特性と資源としての特有性
2006	“林業再生”最後の挑戦
2007	国産材を活用した木質構造材の可能性と今後の林業スタイル
2008	公庫林業関係資金の制度・運用 意見交換会
2009	木材産業の現状と課題
2010	カーボンオフセット・クレジット制度とその事例の紹介
2011	住宅業界の現状と今後の展望
2012	ガンバレ!! 日本の林業
2013	森林・林業の再生における木材利用拡大の現状と今後の展開 木質バイオマス発電事業における燃料調達課題
2014	森林資源の利用は、地球環境を救う
2015	新たな架線集材システム
2016	コンテナ苗の現状と課題 オオカミ再導入によるシカ森林被害抑制の可能性
2017	水を育む森づくり サントリー天然水の森の活動
2018	地域経済の自立・発展に必要なビジネスの視点 林業専門経営コンサルタントの提言
2019	里山機能の重要性 ヨーロッパの建築にみる今後の木材利用の可能性
2020	吉野林業の歴史とこれから 奥大和の魅力、創出と発信

設や、吉野材の高価格販売をめざし感性が評価されるフランスなど欧州への輸出などに取り組んできた。

需要に対して山元から対応し、ストックを有利に生産していくことが大切だ。木のすばらしさを理

解し、木の文化の重要性を考える人たちと良好な関係を築いていくことは、持続的な林業の実現にプラスに働くだろう。

今後は、奈良県内で吉野材サプライチェーン構築や現代版・山守の育成確保などに取り組んでいく。

奥大和の魅力、創出と発信

講演

奈良県総務部知事公室 次長
奥大和移住・交流推進室長

福野 博昭

奈良県庁で主に地域振興の仕事に携わり、ここ10年は奥大和地域のブランディングを担当してきた。

奥大和地域とは、奈良県の東部・南部の19市町村を指す。人口は県全体の10%、面積では80%を占めて

いる。ほとんどが山間地域で主要産業は吉野林業に代表される林業だ。

このエリアに、いかに移住・定住者を増やしていくかが、私に課せられたミッションである。

そのためにはまず、奥大和を知ってもらうことから始まる。次に、関心を持つてもらった方に実際に来てもらう。そのようにして奥大和に関わりを持つ方を徐々に増やしていく。

流れとしては、認知↓交流↓関係人口の創出↓二地域へ居住↓移住↓定住となる。この流れは逆三

角形となっており、認知を大きくしていかないと、移住・定住が増えない。

また、認知をいかに広げるかに当たっては、ターゲットの絞り方が重要となる。当県では、モノづくり、イベント(関係人口創出)、魅力発信(観光)、人材育成の4分野と、農林業、デザイン、食など14ジャンルに分け、各ジャンルごとに認知のためのプロモーションを仕掛けている。一例を挙げると、大阪の百貨店やシンガポールにおける家具や木工品など展示・販売会開催がある。

私がこうした仕事をしていくうえで大事にしているのは、

人との出会い、つながりである。人のつながりが、仕事のつながりを生む。個々のイベントが発端となり、大きな仕事につながる。

最近では、百貨店の催事がきっかけとなり、とある企業の社屋改修工事に、大規模かつ効果的に奥大和・吉野の木材を活用してもらえることになった。

今後も、奥大和の豊かな恵みや人々の暮らしを次世代につなげていけるよう、地道な活動を続けていく。

(近畿地区総括課、情報企画部)

福島支店発

若手経営者に金融機関との
付き合い方を講義

うつくしまふくしま農業法人協会が主催する40歳代を中心とした若手農業経営者の集まりである担い手会の研修に、本店審査部専門デスクが講師として参加。財務会計や管理会計の重要性、金融機関との信頼関係の築き方、融資判断の着眼点について講義しました。

参加者からは「経営の現状や目標を透明性を持って数字で説明することが大事だとわかった」「従業員とのコミュニケーションの悩みなども相談できてスッキリした」などの感想が寄せられました。

12月3日、於：郡山市、参加者：担い手会会員10人



講義のあと、約2時間にわたり、活発な意見交換がおこなわれました

山口支店発

上級農業経営アドバイザーの
経営改善支援手法に学ぶ

山口県農業経営アドバイザーミーティングに、農業経営コンサルタントの井崎敏彦氏が登壇。「農業経営アドバイザーとしての活動の留意点」をテーマに話をしました。

鳥取県での普及員時代の経験を基に、農業者自身が気付いていない優れた点を見つけ、アドバイスにつなげる重要性を力説しました。

参加者からは「農業者から課題解決策を引き出す力を持つことの大切さに改めて気が付いた」などの感想が寄せられました。

12月16日、於：山口市、参加者：山口県内農業経営アドバイザー他14人（オンライン参加10人含む）



「農業者が望むアドバイスとは何か」をテーマに、活発な意見交換がなされました

鹿児島支店発

「ウィズコロナの経営戦略と
トレンド」がテーマの講演会

「第9回 食と農を結ぶ交流フォーラム」を県農業法人協会と共催。積極的な販路開拓によりコロナの影響を克服した農業者の事例発表の後、株式会社ポケットマルシェ代表取締役高橋博之氏がりモートで講演しました。

高橋氏は、進む都市部と地方の分断に警鐘を鳴らし、自身の経験を交えて話しました。参加者からは「厳しい経営環境のなかでも発想を変えて対応できることを学んだ」などの感想が寄せられました。

1月14日、於：鹿児島市、参加者：農業法人・食品企業など94人（オンライン参加19人含む）



高橋氏は「農水産業と食の価値向上のためには相互理解が重要」と話しました

青森支店発

就農前後の農家に
事業計画作成のポイントを説明

就農前後の農業研修生や認定新規就農者などを対象とする県主催の勉強会「下北地域新規就農者『農業力』養成塾」に公庫が参画。夏秋イチゴ・ニンニクを生産中、または生産予定の参加者に、事業計画作成のポイントを説明しました。

参加者からは、「就農前に具体的な事業計画を作成する機会をつくってもらい、非常に参考になった」「就農2年目となる今年に、想定よりも多い金額の運転資金が必要となることがわかった」などの感想が寄せられました。

1月29日、於：むつ市、参加者：認定新規就農者など7人



「就農開始にあたり、自身の計画を考えることができた」との声もありました



セロリの被り物でアピール

◆読者の皆さん、こんにちは！ 西
は有明海、東は御牧山など山々が
連なる、風光明媚な福岡県みやま
市の職員・宮本です。みやま市は、
山川みかん、生産量西日本一のセロ
リ、天皇杯受賞の博多なすがとく
に有名で、私は農産物や加工品の
PR活動に注力しています。地元
道の駅や大都市でのイベントで、ミ
カンやセロリの被り物をしたり、市
のゆるキャラ「くすっぴー」の着ぐ
るみで飛び跳ねたり(自分のなかで
は、ふなっしーばりです)。お客さま
と話に花を咲かせ、すぐに仲良し
になります。

本誌編集者には「体、張ってます
ね」とびっくりされましたが、肩書
きは園(宴)芸担当係長(笑)、そし
て氏名の漢字に4つも口があると
おりおしゃべりなワタクシ。愛する
故郷のお話をするので、みやま市
のファンが増えてくれるのが至上
の喜びです！

本誌では読者の皆さまからのご意見・ご感想を幅広く募集して
おります。特集企画への感想や誌面に登場していただいた農林
漁業者へのメッセージ、農林漁業についてのご意見、また、誌
面へのご意見、ご提案お待ちしております。お名前、ご住所、
電話番号を記載のうえ以下の公庫編集部までお送りください。

ご意見を掲載させていただいた方や参考させていただいた方には、図書カードをお送りします。

[送付先] FAX: 03-3270-2350
メール: anjoho@jfc.go.jp

こちらから
も可能です



本誌2月号3ページ中段13行
目の表記に誤りがありました。
誤)木材の物流
正)木材の商流
お詫びして訂正いたします。

災害の多発やコロナ禍で、いまま
でのやり方以外にも、人とのつなが
りを大切にできるPR活動がない
か、いつも考えています。皆さま、い
いアイデアがあったら、編集部経由
で教えてください(談)。

(福岡県みやま市 宮本 啓吾)

AFCフォーラム 2021.3

編集

前田 美幸 平野 伸介 高雄 和彦
山本 晶子 城間 綾子 竹中 夕美

編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ https://www.jfc.go.jp/

印刷 佐伯印刷株式会社

販売

株式会社日本食糧新聞社
〒104-0032
東京都中央区八丁堀2-14-4 ヤブ原ビル
Tel. 03(3537)1311
Fax. 03(3537)1071
ホームページ
http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/
お問い合わせフォーム
http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/

定価 523円(税込)

編集後記

◆東日本大震災から10年。当時、松
山支店におり、その日は宇和島に出
張していました。携帯が鳴り「東北で
大地震が起きている、津波に注意し
ろ、海に近づくな」との支店からの緊
迫した連絡を思い出します。

今号は、特集ほか震災関連の企画
をとりあげました。最近も大きな余
震がありました。想定外という言葉
はもはや通用しないようです。(平野)
◆特集でお伺いした舞台ファームと
アマタケ。共通していたのは両社の
社長が震災からの復興にあたり、と
もに社員の方へ最大限の感謝を口に
されていたこと。震災をはね返し抜
本的な改善に取り組まれた実行力
は、社員の丸となった行動が支え
てこそ輝きました。コロナ禍の組織
運営にも通じる両社の取り組みをぜ
ひご一読ください。(高雄)

◆12月、福島県飯舘村に「新農業
人」山田豊さんを訪ねました。広大
な放牧地は、冬ゆえ牛はいませんで
したが、前日の雪が日に反射して一
面輝いていました。「春には、あの山の
斜面も放牧地にする予定です」と、近
くの小高い山を指し説明する山田さ
んの瞳も、負けず劣らずキラキラし
ています。二つのキラキラに村の未来
を感じました。(城間)
◆昨年末「世界最高齢総務部員」の
ギネス認定を受けた90歳の女性は、
いまもエクセルを駆使してバリバリ
働いているといえます。その姿は、「観
天望気」の五木さんの「下山は黄金
期」という言葉に重なるように思いま
した。経験を積んだ世代の知見は宝
物。若い世代の意欲や行動力と合わ
せれば、憂慮される社会問題の解決
策が見つかるかもしれません。(竹中)